CO-U-ME こうめ

COMEDICAL NEWSPAPER

編集元
Team CO-U-ME
毎月1日発刊

こうめちゃんがお届けします。
ーつなげる つながる 医療の輪!!ー

薬剤部　DI　ファーマ紙（シー）　No.140

第140号

R5年4月号

ふ　ぁ　ー　ま　し　ー

DI ファーマ紙 No.140

医薬品情報管理室では、副作用報告を積極的に行っていきたいと考えています。ご面倒でも、有害事象があった場合は病棟担当薬剤師にご一報いただきますよう何卒よろしくお願い致します。

TOPICS 鎮咳薬・去痰薬について

【はじめに】

かぜ症候群や肺炎などの呼吸器系の疾患により、炎症や異物が気道を刺激し、咳が出たり、分泌物が増加し痰が出たりします。原因となる疾患に対する治療が大事ですが、それらの症状が気になる場合には鎮咳薬（咳止め）や去痰薬（痰切り）が使用されます。今回は鎮咳薬や去痰薬について紹介したいと思います。

【咳について】

咳は、気道の異物や痰を除去するために反射的に生じる防御反応で、気道内に侵入した異物や、感染などによって咽頭や気管支などを刺激することで生じます。

咳は痰を伴う、湿性咳嗽と咳を伴わない乾性咳嗽に分けられます。湿性咳嗽は、細菌性肺炎や気管支炎、COPD などに見られます。必要に応じて去痰薬を用いることが多いです。一方、乾性咳嗽は気胸や咳ぜんそくなど、咳に反応する部位を刺激することにより起こります。必要に応じて鎮咳薬を用います。

また、咳は持続期間によって３週間以内の急性咳嗽、3～8 週間の遷延性咳嗽、８週間以上の慢性咳嗽に分類されます。急性咳嗽の多くが上気道炎などの感染症による咳嗽が中心です。遷延性咳嗽や慢性咳嗽では感染症とは異なることが原因になることが多いです。

【中枢性鎮咳薬と末梢性鎮咳薬】

鎮咳薬は、作用する部位により中枢性鎮咳薬と末梢性鎮咳薬に分けられます。中枢性鎮咳薬は、末梢（気道や肺）からの咳を引き起こす延髄の中枢に対する反応を抑制し、咳を抑制します（図 1）。

中枢性鎮咳薬は麻薬性鎮咳薬と非麻薬性鎮咳薬に分けられます。麻薬性鎮咳薬の代表的な薬にはコデインやジヒドロコデインがあります。これらは眠気や便秘に注意が必要です。また、非麻薬性鎮咳薬はデキストロメトルファンなどがあり、麻薬性鎮咳薬よりも鎮咳作用は弱いものが多く、副作用は比較的少ないのが特徴です。

一方、末梢性鎮咳薬は咳を引き起こす刺激を末梢で抑え、咳を抑制します。末梢性鎮咳薬は、原因の疾患に応じて、気管支拡張薬や去痰薬、漢方薬などが使用されます。また、2022 年には、咳の伝達経路を遮断することで咳嗽を抑えるゲーファピキサントという薬が発売されました。そのため、咳に対する治療の選択肢も広がりました。

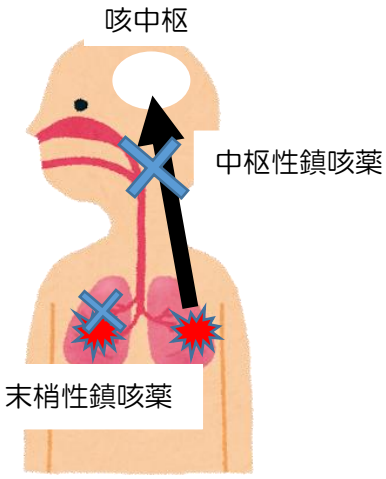

図 1　中枢性鎮咳薬と末梢性鎮咳薬

表１　代表的な鎮咳薬とその特徴

分類	薬（院内採用薬）	特徴・注意すべき副作用
中枢性鎮咳薬 麻薬性	コデインリン酸塩	非麻薬性鎮咳薬に比べ鎮咳作用が強い 便秘や悪心、眠気等の副作用に注意が必要
中枢性鎮咳薬 非麻薬性	チペピジン（アスベリン®） デキストロメトルファン（メジコン®）	便秘や悪心、食欲不振等に注意が必要
P2X3 受容体拮抗薬	ゲーファピキサント	難治性の慢性咳嗽に対して使用する 咳の伝達経路を遮断することで咳嗽を抑えることができる新しい機序の薬 味覚障害などに注意が必要

【ゲーファピキサントの特徴】

咳は気道内の ATP という物質が、P2X3 受容体に結合することで、咳の信号が伝わり、咳が起きます。ゲーファピキサントは P2X３受容体にはたらいて咳の信号が伝わるのを防ぎ、咳を抑えます（図２）。

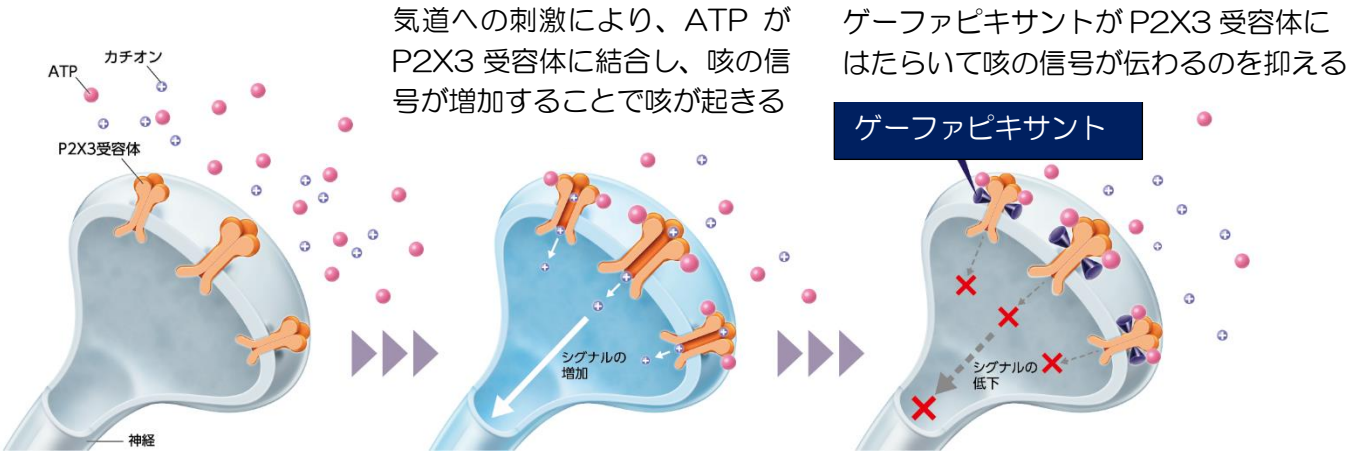

図２　ゲーファピキサントの作用（杏林製薬 HP より引用）

【痰について】

気道の役割の１つに、気道分泌物である痰を産生、分泌し、気道内を潤滑化し、侵入した異物を分泌物と一緒に痰として排泄しようとする働きがあります。痰は水とムチンと呼ばれる主鎖であるタンパク質と糖鎖（ムコ多糖類）から構成されています。糖鎖にはシアル酸とフコースと呼ばれるものがあり、フコースの割合が多くなり、痰の粘度が増します。細菌感染などが起こると、気管内の気道分泌物が増加し、粘度が増した痰が出ることがあります。痰が出にくい場合や痰を出すために激しい咳が出るなどした場合には、必要に応じて、痰を出しやすくする去痰薬が用いられます。

【去痰薬】

代表的な去痰薬とその特徴を表２に記載します。去痰薬は、喀痰の産生を抑制する薬と痰の排泄を促進する薬に分類されます。

表２　代表的な去痰薬とその特徴

分類	薬（院内採用薬）	特徴
喀痰産生抑制薬 　気道分泌細胞正常化薬	フドステイン （スペリア®）	気道の分泌液を正常化し、痰の粘度を下げて、痰を出しやすくする
喀痰排泄促進薬 　気道分泌促進薬	ブロムヘキシン （ビソルボン®）	ムコ多糖類の繊維を切断し、痰の粘度を下げて、痰を出しやすくする
喀痰排泄促進薬 　気道粘修復薬	カルボシステイン	喀痰中のシアル酸とフコースの構成比を正常化し、気道内の粘膜の修復を促進する
喀痰排泄促進薬 　気道潤滑薬	アンブロキソール	ブロムヘキシンが代謝されたもので、気道を覆う粘液を滑りやすくする

【おわりに】

　今回は鎮咳薬、去痰薬について紹介をいたしました。まずは、原疾患の治療が大切ですが、症状が気になる場合には鎮咳薬、去痰薬が使用されます。また、それらの症状が改善したら薬をやめることも大切です。医師や薬剤師と相談のうえ薬を安全に使用しましょう。

参考文献：
薬がみえる vol. 3, MEDIC MEDIA
New 薬理学, 南江堂
杏林製薬ホームページ
リフヌア錠®インタビューフォーム

＜文責　薬剤部＞

【副作用報告件数】３月　　０件
【輸血副作用報告件数】１月　　０件、２月　　０件、３月　　０件